

編集の序

現在、さまざまな画像強調内視鏡が開発されており、診断に欠かせないツールとなっています。

その一方で、若手の先生から、

「そもそもよいviewが出せず、フォーカスを合わせているうちに出血し、撤退を余儀なくされる」

「アトラスをもっているが絵合わせになっしまい、診断に自信がもてない」

「どういうSTEPでみていくべきなのか、診断アルゴリズムをフローチャートなどで明示してほしい」

「どの所見に重きをおいているのか、エキスパートの見かた・着眼点を教えてほしい」

「用語や分類の情報がいろいろあって何となくわからない。すっきり整理してほしい」

といった疑問が多く聞かれます。

そこでこのたび、「診断ロジック」を重視した画像強調内視鏡の入門書を企画いたしました。企画段階から、国立がん研究センターと東京慈恵会医科大学のレジデント・後期研修医にオブザーバーとして加わってもらい、現場の声を聞きながら初学者に役立つ書籍をめざしました。

それでは、『見えないものが観えてくる！』をコンセプトに、

①食道・胃・大腸に絞った構成とする

②アトラスとして使えるだけでなく、観察時の着眼ポイントや、診断のロジックとプロセスに重点をおいた書籍をめざす

③初学者が混乱しやすい用語や分類については、書籍冒頭でわかりやすく丁寧に解説する

という3つの特徴にそって画像強調内視鏡の診断ロジックのすべてを伝授したいと思います。

2016年10月

斎藤 豊，炭山和毅